

よしいけ のぶお

吉池 信男 (教授、地域連携・国際センター長)

大学院健康科学研究科 保健・医療・福祉政策システム領域
健康推進・栄養政策研究室

【担当科目】 学部 (公衆衛生学、健康と栄養管理、ヘルスプロモーション概論、栄養疫学、他)
大学院 (健康政策学特論、統計・疫学演習、ヘルスプロモーション演習、他)

研究室のメインテーマ： 地域の人々の健康を守るための仕組みや、より効果的な教育介入の方策を見いだす。

1. 健康・栄養政策に関する研究

国レベルでの生活習慣病対策や健康政策の評価(健康日本21等)、食事バランスガイド、食事摂取基準などの食事勧告、栄養教育の手法や評価に関する研究を行っています。

- 食事調査マニュアル～はじめの一步から実践・応用まで. 第3版、南山堂, 2016
<http://www.nanzando.com/books/63333.php>
- A New Food Guide in Japan: The Japanese Food Guide Spinning Top. *Nutrition Review* 65(4): 149-154, 2007
- 「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル, 第3版 第一出版, 2018
<http://www.daiichi-shuppan.co.jp/book/book205.html>
- 生活習慣病のリスク低減を目的とした介入研究における報告の質に関する系統的レビュー. *栄養学雑誌* 2011; 69: 182-192
- 健康政策の推進・評価における国民健康・栄養調査 ～長期モニタリングとしての役割と歴史～. *保健医療科学* 2012; 61: 388-398
- 平成27年度乳幼児栄養調査からみた現状と施策への展開. *臨床栄養* 2017, 130(2); 333-339,
- 小児の栄養・食生活支援に関わる法律・制度・施策. *小児科臨床* 72(4) 428-431; 2019



2. 小児期からの健康・栄養ケアに関する研究

健康的な食習慣や生活習慣の確立には、乳幼児期からの働きかけが重要であり、その基礎となる研究や活動を行っています。

- 幼児の咀嚼行動にかかわる教育プログラムの開発とプロセス評価. *栄養学雑誌* 2013; 71: 264-274
- Effectiveness of a nutrition education program to improve children's chewing habits. *International Scholarly Research Notices*. 2016
- 食品マーケティングから子どもたちを守る. *チャイルドヘルス* 2016; 19(11) 828-831
- 災害時における乳幼児・妊産婦での栄養問題と対応. 2016, *臨床栄養* 128(3), 320-323
- 地域における就学前児童に対する肥満予防のための教育的介入と評価. *日本衛生学雑誌* 2017, 72, 20-24
- 乳幼児期における食の課題と対策, 今後の方向性. *保健医療科学* 2017, 66(6), 566-573
- 小児期の食教育における包括的アプローチ. *小児臨床栄養学*, 433-436, 2018



【高校生へのメッセージ】

「栄養学」は、広い意味での「医学」(医科学)の中で、学問的にも、実践面でもたいへん重要であり、面白い分野です。また、「栄養」(不足と過剰)は世界的にも重要な課題で、高い学識・技術をもって途上国などで貢献する人材が求められています。栄養学の道で研鑽を積み、様々な知的好奇心、職業的専門性を得ることができます。

本学栄養学科と一緒に学び、広い世界に羽ばたきませんか！？



3. 健康な地域づくりのための基盤整備に関する研究

各自治体や地域における保健・医療・福祉に関わる活動や制度に関する研究を行っています。

- 健康増進施策推進・評価のための健康・栄養調査データマニュアル活用マニュアル
<http://www0.nih.go.jp/eiken/chosa/pdf/20111215.pdf>
- 妊娠期から子育て期における母親の食知識・食行動と生活習慣：北海道Y町の母子保健事業におけるモニタリング調査から. *栄養学雑誌* 2012; 70(3), 197-206
- 公共政策の視点からみた地域社会における食育の可能性. *日本食育学会誌* 2015, 9(2) 197-205
- 親子向け健康中食マーケティングのPDCAサイクル. *日本健康教育学会誌* 2018 26(1); 28-37

大学院生の研究テーマ (2008年度～)

- 介護予防特定高齢者施策における栄養改善プログラムの現状と課題の検討
- 幼児期における咀嚼行動に関わる食育の効果指標の検討
- 児童の体格と地域特性に応じた食環境の評価法に関する検討
- 保育所における個人特性に合わせた栄養・給食管理業務の実践に向けた要因分析
- 国際協力における栄養改善活動でのプログラム評価に関する研究
- 特定健診の「標準的な質問票」を補う項目 —若年成人男性を対象とした検討—
- 生活習慣病リスク低減のための介入プログラムの研究デザインと報告の質に関する系統的レビュー
- 回復期リハビリテーション病棟の脳卒中入院患者における栄養管理と退院時自立度との関連についての検討
- 成人男性のがん検診受診勧奨における新たなセグメントの特性分析と受診行動を促すキーワードの探索 —行動科学理論とマーケティング手法を用いた調査—
- 小学校における肥満傾向児への個別相談指導実施に関する促進要因及び手順の検討
- 東日本大震災被災住民の精神的健康に関連する食行動および食環境
- Nutritional status of children and their mothers and its determinants in urban capital and rural highland in Papua New Guinea**
- 出産前後における母親の食知識・食行動および生活習慣に関する研究
- 小児における咀嚼にかかわる行動変容を効果的に促す教育プログラムに関する研究
- Grouped factors of the “SSADE; Signs and Symptoms Accompanying Dementia while Eating” and nutritional status: an analysis of older people receiving nutritional care in long-term care facilities in Japan**
- 小児の野菜摂取を高める教育プログラムの包括的評価指標の開発
- Effectiveness of workplace self-weighting interventions through randomized controlled trial
- 高校生のヘルスリテラシーに関する研究—長命地域と短命地域の比較—



栄養学科ゼミ生の主な研究テーマ (2011年度～)

- 東北における減塩に関わるポピュレーションアプローチ ・食塩摂取量の栄養疫学的検討
- 食環境整備における減塩ほどの程度の効果を見込めるか ・保育所における食事の提供と栄養ケア
- 日本における「フード・セキュリティ」の概念上の特徴 ・青森県各市町村食育推進計画における食の安全
- 小児肥満に関わる地理的環境要因の予備的検討 ・妊娠中の体型と食知識・行動に関する検討
- 保育園児におけるスクリーン使用時間と生活習慣および肥満との関連
- 地域において栄養表示を推進するためには何が必要か
- 地域集団における食塩摂取量と食品消費、疾病リスク、保健医療資源との関連
- 青森県の小中学校における肥満予防のための生活習慣支援・栄養管理
- 学生寮に暮らす大学生の食に関するヘルスリテラシー向上のための考察
- 低出生体重児出生割合とメタボリックシンドロームリスクとの関連—地域相関分析による仮想的な縦断的検討—

プロフィール

横浜市出身。東京医科歯科大学医学部卒業後、小児科医として病院勤務。その後、国立健康・栄養研究所で、厚生労働省・農林水産省「食事バランスガイド」策定委員会の座長を含め、国の健康・栄養政策、各種ガイドラインの立案・策定に関わる。2008年に青森県立保健大学栄養学科長に着任（現在は地域連携・国際センター長）。

青森で四季折々の自然の恵み（魚、日本酒と温泉）を満喫中。

